平成22年度第2回市川市総合計画審議会 会議録

日 時：平成22年8月31日（火） 14：00～16：00

場 所：市川市役所 3階 第4委員会室

出席者（委員名の五十音順）：

石原美佐子、井上 俊彦、歌代 素克、大場 諭、加瀬 睦夫、幸前 文子、
國府濱敦子、小森 光雄、鈴木 啓一、鈴木 順子、須保 毅、瀧上 信光、
田中 幸太郎、二瓶 忠良、藤村 美由紀、松永 鉄兵、神子田健博、
山口 繁雄、 以上18名

議 題：1) 諮問
2) 諮問内容の説明

○事務局 皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、また、暑さ厳しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

委員の交代がございましたので、会議に先立ちまして、新しい委員の方に委嘱状の交付をさせていただきたいと存じます。

8月23日付の千葉県警の人事異動に伴いまして、小森光雄様が市川警察署長に就任されました。市川市長から委嘱状をお渡しさせていただきたいと存じます。

（委嘱状交付）

○事務局 それでは、議事を会長に引き継がさせていただきます。瀧上会長、よろしくお願いいたします。

○瀧上会長 それでは、平成22年度第2回市川市総合計画審議会を開催いたします。

まず、本日の審議会は、委員定数22名のうち18名出席で過半数を超えておりまして、会議の定足数を満たしております。したがって、本審議会は成立いたしております。

次に、傍聴人についてでございますが、市の会議公開に関する指針では、審議会等の会議は、公開を原則とする旨定められておりますことから、本日の会議を公開いたします。

会議録でございますが、事務局が作成し、会議録署名人に内容をご確認いただいております。今回は、須保委員と石原委員に署名人をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、次第に従いまして、市川市総合計画第二次基本計画の諮問に移らせていただきます。

事務局、お願いします。

○事務局 それでは、会議次第に従いまして諮問に移らせていただきます。

大久保市長から瀧上会長に基本計画の諮問をさせていただきます。大久保市長、よろしくお願いいたします。

（諮 問）

○事務局 それでは、大久保市長よりごあいさつを申し上げます。

○大久保市長 皆さん、こんにちは。きょうは皆様方、大変お忙しい中、また、酷暑が

続く中、この審議会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。ただいま、市川市基本構想に基づく次年度からの向こう10年間の第二次基本計画の素案がまとまりましたので、これを諮問させていただいたところでございます。

市長就任以来、ちょうど時を同じくして市川市の財政状況の急速なる悪化ということに直面しております、予算編成もなかなか思うに任せない部分があります。経済社会情勢の変化を乗り越えて、市民発の行政を実現する、これこそまさに私の言ってきた市川新時代であろうと、このようにとらえております。

この審議会においても、市川新時代という感覚のもと、新しい考え方をもってご審議をいただきますことをお願い申し上げまして、開会に当たりましてのごあいさつとさせていただきます。どうぞ、きょうはよろしくお願ひいたします。

○事務局 この後、市長は次の公務がございますことから、ここで退席をさせていただきます。

(市長退席)

○瀧上会長 それでは、次第に従いまして諮問内容の説明に移りますが、説明の前に、本日諮問いたしました基本計画（案）のこれまでの策定過程及び今後のスケジュールなどにつきまして、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局 説明に先立ちまして資料の確認をさせていただきます。

(資料)

市川市総合計画第二次基本計画（案）

資料1 第二次基本計画体系図

資料2 第二次基本計画に対する意見等一覧

資料3 第二次基本計画の評価の方法

資料4 第二次基本計画の策定スケジュール

資料5 市民意向調査結果集計表

以上、不足はございませんでしょうか。資料5につきましては、8月16日を締め切りとした市民意向調査の結果が、速報でございますけれども、取り急ぎ取りまとめまして本日の会議に配付資料として配布させていただきました。

それでは、これまでの策定経過、今後のスケジュールについて、資料4に基づきましてご説明をさせていただきます。

まず、これまでの策定経過についてでございます。

平成21年度におきましては、当審議会におきまして第一次基本計画の評価を行っていただき、その結果を総合評価書として取りまとめまいりました。

また、あわせて第二次基本計画の柱立てについてご審議をいただき、基本計画の概要を固めてまいりました

平成22年度におきましては、7月15日の第1回の審議会において、諮問前の段階の素案についてご審議をいただきました。

この素案をもとに

- ・ 7月21日から8月20日の期間においてパブリックコメント
- ・ 8月2日から16日の期間において、無作為抽出で選ばせていただいた市民の皆様3,000人の方々に対する意向調査
- ・ 8月1日にタウンミーティング

などの機会を設け、素案に対する市民の皆様の見解をお聞きしてまいりました。

これらの機会で寄せられましたご意見につきましては、後ほど資料 2、5 を用いてご紹介をさせていただきます。

本日諮問しました案につきましては、このような経緯で作成してまいったものでございます。

審議会におかれましては、本日あらかじめお配りしてあります冊子の内容について意見を答申として取りまとめていただきたく存じます。

次に今後のスケジュールについてでございます。答申は2月上旬をめどに取りまとめたいただきければと考えております。答申までの間、議会開催月を除く10月、11月、1月に審議会を開催する予定とさせていただいているところでございます。

まず、10月、11月の2回の審議会では、審議の対象とするテーマを決めまして、項目ごと、あるいは分野ごとに冊子の内容について委員の皆様からご意見をいただきまして、次の3回目の会議においては、ご意見をさらに何うとともに、それまで出された意見を集約・調整し、審議会でご答申の文書として取りまとめていただきたいと考えているところでございます。

2月に予定されている第6回の審議会にて答申をいただき、これをもとに、計画案の修正を行い、庁内の意思決定機関である庁議等により内容を確定してまいりたいと考えております。

今回諮問しましたのは総合計画のうち基本計画部分であります。実施計画につきましては、来年度の予算査定作業と歩調を合わせる形で素案の策定を進め、しかるべき時期に当審議会にご提出をさせていただきたいと考えております。

以上が、本日諮問しました基本計画のこれまでの策定経過及び今後のスケジュールについてでございます。

○瀧上会長 今後の審議会の進め方について、何かご意見等ございますか。ご質問等がございましたらどうぞ。

よろしいですか。それでは、ただいま事務局から説明のありましたような形で、今後審議会を進めてまいりたいと思っております。

次に、諮問の内容につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局 諮問させていただいた「市川市総合計画第二次基本計画（案）」の目次をご覧ください。

基本計画は大きく5つの章に分かれております。

I. 総論につきましては、策定の趣旨、第二次基本計画の位置づけ、計画の前提、そして平成13年度から平成22年度までの第一次基本計画の評価について記載しました。

II. 基本計画につきましては、まちづくりの目標と、それを達成するための手法、この部分に社会基盤整備とかアプローチ、これからの協働についてが記載されています。

施策別計画につきましては、市川市が取り組む45の分野について、それぞれ見開き1ページにわたり記載しております。

III. 基本計画の評価につきましては、この第二次基本計画を3つのステップにより行政と市民、そして総合計画審議会がチェックしていくことを明記いたしました。

IV. 基本構想につきましては、平成12年12月に議決された基本構想を原文のまま記載しております。

V. 参考資料につきましては、総合計画にあるゾーニングを転載しております。

それでは1ページより説明させていただきます。

1ページは「策定にあたって」です。ここでは、今後10年間の大きな課題として、人口

減少をもたらす影響と、それに対する対応、そして今後は、「多様な協働により進める」ことと「効率的、効果的な施策展開でまちづくりに取り組む」ことについて、姿勢を示しました。

また、このページの最後の2行で、この第二次基本計画を「市の政策運営」と「多様な主体と、多様な形態による協働」の2つを取り組むに当たっての規範として定めるものとしたしました。

次のページの計画の位置づけ、また4ページからの人口推計につきましては、第1回の総合計画審議会での説明に変更はございません。ただ、4ページの下段にあります折れ線グラフにつきましては、今回、新たに左側に昭和35年までさかのぼって記載することといたしました。昭和35年（1960年）から人口のピークである平成27年までの55年間の大きな流れをイメージとしてとらえることができる資料といたしました。そして、このグラフの2本の縦の点線の間、「推計」とあるところですが、真ん中にあります47万3,581人、平成27年度の人口になります。現在、平成22年度ですので、これから5年後の平成27年度を境として緩やかな人口減少に転じていることを再度ご確認くださいと思います。

また、5ページの年齢構成につきましては、棒グラフの一番上にある一番色の濃い部分が65歳以上の人口です。平成17年度、平成22年度と比較して、第二次基本計画の目標年度である平成32年度の65歳以上人口の割合が、目に見える形で増加しているのがわかります。そして、その下にある15歳から64歳までの人口がほぼ同じペースで、減少していることがわかります。人口が減少することと、その年齢別構成が大きく変化することを認識した上で、計画の策定を行う必要があると考えております。

8ページには、財政推計をお示ししました。

前回の第1回会議において提出した素案においては、増税計画のような誤解を受ける表現等もありましたので、内容を変更しております。また、右側にあります表ですが、10年間の財政規模を1兆2,233億円と推計しております。こちらの推計は平成22年、昨年度の1月に作成した中期財政見通しに基づいて試算したものです。今後、平成23年度の予算編成にあわせて数値の精度を高めていく予定であるため、変更となる可能性があることをご了解ください。

続きまして10ページ、今後10年間で行う基盤整備であります。第1回の会議で京成本線立体化事業の記載がない旨ご指摘いただいておりますが、事務局といたしましては、このページには、事業認定がされたものなど確実なものに限った記載といたしたいと考えております。京成本線立体化については事業内容がまだ確定していないことから、分野別シートの78ページ、79ページに記載させていただくことといたしました。

続きまして、12ページをお願いします。「市がこれまで力を入れてきた施策分野における取り組みと今後の課題」について16ページまで記載しております。具体的には、①環境の保全・創造、②安全・安心の向上、③ユニバーサルデザインの推進、④健康の増進、⑤文化の振興、⑥子育ての支援、⑦教育の振興、⑧協働の推進、⑨地域経済の活性化、⑩ICTの利活用であります。これらは計画策定の背景になるとともに、今後の施策展開に配慮すべき事項となります。

続きまして、17ページ、第一次基本計画の評価になります。こちらには、平成21年度に審議していただいた第一次基本計画の総合評価について改めて掲載したものです。

18ページの下にあるグラフは、第一次基本計画の評価を行った際の、各施策に対する市民の満足度と重要度の関係を示したものです。

また、市民の皆様、そして総合計画審議会の委員の方々からも第一次基本計画の評価に

についてはさまざまな意見をいただきました。それらの意見は第二次基本計画における「現状と課題」につなげ、また、こちらで出てきました重要度や満足度を踏まえた上で第二次基本計画につなげてまいりたいと考えております。

20ページには、10年間の「まちづくりの目標」を示しました。目標について、第1回総合計画審議会でお示しした内容からの変更点がございます。

真ん中にあります「文化、環境、教育など、10の視点を意識したいかわらしい施策展開により、安心して快適なにぎわいのあるまちへ」という部分ですが、素案では「多角的な視点による施策展開でいかわらしさを向上し」という表現でした。

この中で、「いかわらしい」という表現が余りにも概念的で伝わりにくいといったご指摘がございましたので、市川の特徴である「文化、環境、教育など、10の視点を意識したいかわらしい施策展開」という文に変更いたしました。

3行目につきましては、素案では「快適なにぎわいのあるまちへ」という表現でした。高齢者福祉や子育てといった優しさの視点を入れること、また、住宅都市として安全なまちが望まれていること、そのようなことを踏まえ、「安心して」という言葉を追加することといたしました。

21ページには、第二次基本計画の体系図をお示ししました。このページにつきましては、本日お手元に修正原稿をお配りしておりますので、差し替えをお願いいたします。

こちらの見開きの表、左から2つ目、大分類が45本、中分類が104本、小分類が275本となっております。

資料1は、小分類まで含めた全体の体系図でございますので、ご確認を願います。

続きまして23ページ、「まちづくりの目標を達成するために」についてでございます。

まちづくりの目標を達成する手法の一つ目が、「地域特性の特化」です。

市川市は面積では全国的に見ても小さい市ですが、その地域の特性は多様です。良好な住宅地域としての市川市、便利な地域、梨や海苔といった特産品もとれますし、広域交通網の結節点として、また自然が豊富な地域といった面も兼ね備えております。

「いかわらしさ」という言葉は、これらのさまざまな地域特性の中から1つだけ選択して、それだけを重点的に伸ばすという意味ではなく、さまざまな特性があることこそが「いかわらしさ」であり、そして、その地域とともにまちづくりを進めていくことが重要であると考えています。

二つ目の手法として、24ページに「行政主体の協働から、多様な主体間での協働」を示しました。多様な主体が、それぞれの多様な形態、多様な関係を築き、協働して取り組むことで、社会が持つ共通の課題の解決に取り組むことが公共の福祉の増進につながり、さらには新しい価値の創造につなげることが可能になると考えております。

三つ目の手法として、「いかわ いろどりアプローチ」を示しました。25ページ下のイメージ図では、わかりやすい道路を例として、10の視点到配慮した施策展開の例をお示しました。

次のページには、その「いろどりアプローチ」と45本の分野との関係を示しました。表中の二重丸は、例えば「子育ての支援」というアプローチと、「子育て」という分野など、アプローチと分野がその目的を同じくする特に関連の深い分野という整理をしております。その他の関連の深い分野につきましては、丸印をつけております。

28ページからは保健・医療から始まる45本の大分類です。今回、右下にあります「分野の達成状況をみる目標値」の欄は空欄となっておりますが、この部分は、後ほど資料5に

てご説明いたします。市民意向調査の結果を参考しながら埋めていきます。

130ページに、第二次基本計画の今後の評価について記載しております。第一次基本計画の評価で行いました、内部評価、それを踏まえた市民アンケートによる外部評価、総合計画審議会の委員の皆様からの意見を踏まえた総合評価という3つのステップによる評価手法を、第二次基本計画についても同様に行ってまいります。

それぞれのステップにおける具体的な作業につきましては、資料3をごらんください。資料3の上半分の部分には行政が行う施策評価レポートのイメージをお示ししております。この例では、保健・医療の分野について、行政はどのような施策を行ってきたのか、また、その結果はどうであったのかを、主要な施策の実績を用いて報告いたします。

例えば保健・医療に関しては、主要な施策として母子健康教育を何日間やった、受講者数は何人であった、母子保健相談は何日間やった、こういったことを報告することになります。また、代表的な目標値につきましては、第二次基本計画において定めた指標、この場合でありますと一般診療・医療機関の数がどのように推移しているかを示すこととなります。

また、右側には分野別のいづれレポートとして、それぞれの分野において、環境や安全・安心などへの配慮をどのように行ってきたかを記載することとしています。

こちらの行政による「施策評価レポート」は45本ある大分類ごとに作成いたします。保健・医療から始まり、スポーツ、自然環境、地球環境と続きますが、このシートが45枚あるというふうになります。

ステップ2として、市民アンケートによる「施策評価」を実施します。アンケートの実施に当たっては、ステップ1で作成した上にあります行政が行った施策評価、45枚のシートを同封して、それをお読みの上で、施策ごとの満足度、保健・医療には満足していただいているのか、スポーツには満足していただいているのだろうか、そういったことを回答していただくこととなります。

そして、ステップ3では、総合計画審議会に行政による施策評価と市民アンケートの結果を報告し、ご意見をいただいた上で総合評価として取りまとめまいります。以上でございます。

○事務局 続きまして、お手元の資料2、第二次基本計画に対する意見等一覧及び本日配付をさせていただきました資料5、市民意向調査結果集計表についてご説明をいたします。

資料2は、これまで実施してまいりました市民からの意見をお聞きする機会でもいただきました意見の集計表でございます。

これまで、パブリックコメント、タウンミーティング、出前講座などを実施し、38名の方から89件のご意見をいただくことができました。

まず、パブリックコメントにつきましては、市川市市民等の市政への参加の推進等に関する要綱の規定に基づきまして、7月21日から8月20日までの31日間実施いたしました。このパブリックコメントを実施する際には、素案を閲覧していただけますよう、市のウェブサイト及び市役所、中央図書館、行徳図書館など市内6カ所で素案が閲覧できる環境を整え、ウェブサイトの意見提出専用フォームからの投稿、ファクス及び直接持参などの方法により、15名の方から51件の意見をいただくことができました。

次にタウンミーティングでございますが、これは計画の素案を私ども事務局から参加者の方にご説明し、その場で意見交換をする場として設けさせていただきました。実施日が

8月1日日曜日、午前は市川市消防局ホール、午後は行徳文化ホール I & I の会議室で2回開催し、6名の方から20件の意見をいただくことができました。

出前講座につきましては、団体からの要望に応じまして職員が出向き、計画の内容についてご説明をいたしました。これまで3回の開催をいたしまして、100名以上の方が参加していただきました。中で16名から17件の意見をいただくことができました。

それぞれの意見につきましては、資料2の表に記載してあるとおりでございますが、どのような項目についての意見があったかということをご概略申し上げますと、まず、表中のナンバー1から12までにつきましては、計画の総論部分に対するご意見でございます。12件いただいております。次に、番号13番から15番まで3件、これらはいろいろアプローチについてのご意見をいただきました。次に、16番から21番までが計画の評価に対するご意見をいただきました。また、ナンバー22から25までの4件は意見聴取の方法についてのご意見をいただくことができました。次に、ナンバー26からナンバー88までの63件が、それぞれの施策分野に関するご意見となっております。表の一番最後、ナンバー89といたしまして、その他としてご意見をいただくことができ、合計89件のご意見がございました。

なお、パブリックコメントにつきましては、8月20日までの期間実施いたしました。締め切り日においても多数のご意見をいただくことができました。これも計画に対する市民の皆様の関心が高いことのあらわれであろうと認識しております。

1カ月のパブリックコメントの期間において、早期に寄せられた意見につきましては、本日諮問させていただいた冊子に対応させていただいたものもでございます。また、締め切り日近くにいただいた意見の中には、市としての対応方針をまとめ、その対応を冊子に反映させる必要があるものも多く含まれておりました。これらの意見につきましては、今後取りまとめ作業を行い、対応方針が固まったものを次回の審議会に報告させていただきたいと考えております。

以上が資料2に関する説明でございます。

次に、お手元の資料5の市民意向調査結果の集計表についてご説明いたします。

この市民意向調査を実施した目的でございますが、大きく2つの目的がございます。まず1つ目といたしまして、市民の施策に対する満足度、それぞれの施策にどのような満足度を持っていらっしゃるか、その初期値、すなわち計画の初めの段階での値を把握させていただくこと、2点目が、目標として設定すべき項目を選定するための資料とすること、の2点です。

まず、概略でございますが、調査の方法といたしましては、8月2日に無作為抽出で、二十歳以上の市民3,000の方に郵送にてアンケートを送付いたしました。提出の締め切りは8月16日月曜日とさせていただきます。

集計をいたしましたところ、1,244名の方から回答をいただき、回収率は41.5%となりました。

参考までに12月に実施いたしました市民意向調査、これは現計画の評価を進める上での調査を行ったわけですが、同じく3,000名の方に郵送し、回答が876名、回収率が29.2%でございましたので、今回、12.3ポイントほど回収率が上昇したことになります。

次に、結果でございます。まず、資料5の1枚目にて、先ほど申し上げました1つ目の目的、市民の施策に対する満足度、その初期値を把握することについての集計結果をご説明いたします。「〇〇の取り組みに満足していますか」という形式でご質問し、「満足である」、あるいは「満足ではない」、「わからない」、3つの選択肢でご回答いただいた結果でございます。

表の左側には施策分野ごとに取りまとめたもの、表の右側には、満足度の順位で、上から高いものから並べ直したものを示しております。

「市の取り組みに満足していますか」と45の分野に問いかけた結果でございますが、数値の高い分野といたしまして、「文化的資産」に対する取り組みの満足度66.3%、次に文化・芸術62.1%、次に平和62%、以下、資料にございますとおりでございます。

また、数値の低い施策分野といたしまして雇用・労働12.2%、道路・交通14.0%、地球環境20.7%という結果になりました。

資料の次のページには、各施策分野の集計結果をお示ししました。

まず1枚目にお示しいたしました満足度の結果が1段目でございます。保健・医療の欄をごらんいただきますと、「施策分野の満足度」となっております表、これの満足度42%、この数字は先ほどの1枚目の表と同じ値でございます。2段目につきましては、「施策分野に関する市民意識」という問いかけをしております。具体的に申し上げますと、現在の医療に不安を感じている市民の割合、あるいは健康だと感じる市民の割合、健康のために食事に気をつけている市民の割合、それぞれこれらの項目について、「していますか」という問いかけで、「はい」、「いいえ」、「わからない」という回答を得ております。結果をここで見ますと、1番目の現在の医療に不安を感じている市民の割合は64.1%、健康だと感じる市民の割合は66.7%、健康のために食事に気をつけている市民の割合は81.9%のような結果が得られております。

これら2つの1段目の施策の満足度及び2段目の市民意識につきましては、市民にアンケート形式で意識を問うものでございます。これらにつきましては、今後10年間、施策を運営するに当たって、定期的に意識調査を行い、数値の推移を把握していく予定でございます。

また、3段目の「代表的な目標値」についてのご説明をいたします。この表では4つの項目、例えば一般診療・医療機関の数を重視する人の割合は61.7%、以下、市内で受け入れることが出来た救急患者の数、予防接種を受ける率、医療費の金額という項目で、「これらの項目で施策を見るに当たって何を重視されますか」という問いかけをしております。これらの結果で申し上げますと、施策を判断するに当たって最も重視するという方が多かった項目は医療費の金額で69.4%、続いて一般診療・医療機関の数が61.7%、市内で受け入れることが出来た救急患者の数が41.5%。予防接種を受ける率14.6%という結果が得られております。これらは市民の目線でみた場合、どのような目標の項目が重要であるかという重要な情報が含まれているものでございます。今後、冊子の中に記載されております目標とする項目を妥当なものを選定する作業の中で、この3段目の代表的な目標値の欄の意見を参考にし、選定をしてみたいと考えております。

また、目標値の設定、記載の仕方でございますが、項目によっては、ずばり値で記載できるものもございましては「向上させる」、「増加させる」、「減少させる」などの表現がふさわしいものもあろうかと思っております。数値で示すのか、または、そういった傾向で示すのか、どのような表記の仕方が妥当であるかということについてもあわせて検討してみたいと思っております。

最後に、この目標値の取り扱いの方法についてご説明をいたします。先ほどの説明いたしましたとおり、第二次基本計画の評価については3つのステップで評価をしてみたいと思いますが、その第一ステップである行政による施策レポートの発行という中で、この目標値の値、結果が含まれて公表されていくことを想定しております。これらの目標値につきましては、市民が市の施策の取り組み状況を知るのに重要な情報であると考えているからでございます。これを施策評価に入れ、定期的に公表し、市民によりその評価をしていただく

ということで、行政の市民に対する説明責任を果たすとともに、市民が行政のことをよりよく知っていただく機会が提供できるものと考えております。もちろん最終目的でありまず基本計画の実効性を高めることに多大な貢献をするものと考えております。

以上、第二次基本計画に対する市民の皆様からのご意見と市民意向調査の結果について説明をさせていただきました。

○瀧上会長 これまで事務局のほうから今回諮問されました第二次基本計画（案）の内容及び市民の意見についての説明が終わりました。諮問された案につきましては、次回以降、この内容について審議に入ってまいります。今の段階でただいま事務局から説明がありました内容につきまして、委員の皆様からご意見、ご質問をいただきたいと思っております。挙手をしてご発言をお願いいたします。

○幸前委員 前回の会議で素案のほうを見せていただいて、違和感を感じた点が2点あります。

1点目は、20ページに書かれている10年間のまちづくりの目標で、前回の審議会で示されたものと少し文言は変わっているんですけど、25年間の将来都市像の「ともに築く 自然とやさしさがあふれる 文化のまち いちかわ」とこの10年間のまちづくりの目標の「快適なにぎわいのある」という言葉が、どうも私は相反するものに思えます。

2点目は、いろいろアプローチの丸つけについてです。26ページ、27ページに丸印がついていますが、私は、今後10年の計画なので、基本的にこの横ぐしの10個は最低ラインで、全部丸がついていなければいけないんじゃないかと思っております。丸が抜けているところについては、前回も意見を述べたところですが、今回も前回と似たような形で出てきています。

この審議会で意見を出すことにより、目標やいろいろアプローチの内容が変更されるものと考えてよろしいのでしょうか。

○事務局 事務局から今の2点のご質問についてお答えさせていただきます。

まちづくりの目標については、前回の審議会でのご意見を踏まえて、今回の案としては、「文化、環境、教育など、10の視点を意識したいかわらしい施策展開により、安心で快適なにぎわいのあるまちへ」と文言を変更いたしました。

総計審の意見については、私どもも重く受けとめ、計画を最終に確定する際の判断材料にさせていただきますと考えております。

2点目につきましては、私どもも同感であり、計画のスタート時点では全ての箇所に丸がつくべきであろうと思っております。

ただ、今回丸印をつけた部分につきましては、既にあらかじめ明らかになっている計画の中に盛り込まれているもの、あるいは事業の実態から配慮していくことが考えられるもの、さらに今後検討し得るものということで丸つけ作業を行いました。

結果的にすべての欄に丸つけがされてはおりませんが、決して丸がないところについて配慮しないということではなくて、基本的にはすべて10のアプローチについては分野別計画の中で施策を立案する際には配慮していくということを念頭に置いているものと考えております。

いろいろアプローチにつきましては、基本計画の定期的な評価作業の中で、どんな取り組みをしてきたのかということ、レポートとしてまとめさせていただき、市民の評価を加えていただければと考えているところでございます。

○幸前委員 趣旨は理解します。しかし、いろいろアプローチの評価について、そもそも、丸がついていない項目については、レポートの項目としてあがってこないですね。

10の視点は持つつもりでもと言われても、5年後、違う担当者がそれを続けられるのか。やはり項目を挙げていかないと、取り組みが継続しないと思います。

私はやはり全部の施策で、10の視点での取り組みを担保するためにも、丸を全てにつけるべきだろうと思います。

まちづくりの目標については、将来都市像があれば十分であり、10年間の目標を書くのであれば、例えば「文化、環境、教育など、10の視点を意識したいかわらしいやり方で、将来都市像を達成します」と書けばよいのではないのでしょうか。

○事務局 ご指摘のとおり、将来都市像については、今後も変わらぬ目標として目指していくところでございます。第一次基本計画を策定した際は、基本構想と基本計画を同時に策定しましたので、将来都市像があれば、改めて基本計画の中に10年間の目標を示す必要がありませんでした。今回、第二次基本計画を策定する際は、基本構想の目標のもと、

今後10年間、具体的にどういうところで重点的に取り組んでいくのかということをも市民の皆様にお示しさせていただく必要があると考えております。

目標の文言については、審議会等のご審議をいただきながら、固めてまいりたいと考えております。

○鈴木（啓）委員 「いちかわ いろいろアプローチの体系」については、前回、私は市川らしさを向上させるために10のアプローチ、環境の保全・創造、安全・安心の向上、ユニバーサルデザインの推進、健康の増進、文化の振興、子育ての支援、教育の振興、協働の推進、地域経済の活性化、ICTの利活用というは大変結構であると申し上げました。今回はこの表がさらに充実されたように思われます。

そこで、この丸つけを行ったプロセスについて、また、どういう基準で丸をつけたのか、私はイメージができないわけでありまして、具体的に具体例を含めて説明をまず願います。

○事務局 表における丸につきましては、施策の大分類と、いろいろアプローチの10の配慮事項の関連をあらわしています。

現在、記されている丸印につきましては、施策分野の既存計画において関連が明確な場合、施策の実態からみて関連が明確な場合、今後関連した取り組みが可能と思われる場合について、所管の部と調整しながら丸つけの作業を行ってまいりました。

すべての欄に丸が付されているわけではございませんが、丸のないところは配慮しないということではなく、基本的には10のアプローチすべてを分野別計画の中で配慮していくべきであると考えております。

具体例を申し上げますと、「子どもの教育」という大分類において、いろいろアプローチの「教育の振興」に二重丸がついております。これは、「子どもの教育」という施策分野は「教育の振興」という視点ですすでに取り組んでいることを示しています。

また、10の視点のうち、「環境の保全・創造」の視点から申し上げますと、学校版環境ISOの取り組みであるとか、学校施設に自然エネルギーを利活用したようなものを配慮していく、「安全・安心の向上」の視点では、かけこみ110番であるとか登下校時のパトロールの強化、ユニバーサルデザインの視点からは、学校のバリアフリー化や、あるいはさまざまな国の人たちとの交流、「健康の増進」の視点では、ヘルシースクール推進事業や体力向上推進事業、文化の振興の視点からは、市川の風土、歴史、文化的遺産を教育的活動に活用する、「子育ての支援」の視点では、幼稚園の子育て相談窓口であるとか家庭教育学級の開催、「協働の推進」視点では、コミュニティクラブ、学習支援クラブ、「ICTの利活用」の視点では、授業にコンピューターを活用した教育などを想定してまる付け作業を進めてまいりました。

また、「公園緑地」の施策分野で例を申し上げますと、例えば、「環境の保全・創造」の視点は、両者が密接に関連していることから二重丸の表記になり、「安全・安心の向上」の視点では、ブロック塀の倒壊の危険を考慮した生け垣設置の補助、地震、火災の災害時に防災公園だけでなく普通の公園も避難場所とするような機能、防火帯となるようなスペースの確保、「ユニバーサルデザイン」の視点では、バリアフリー、「健康増進」の視点では健康遊具の配置を進めたり、あるいは森林浴・散策コースの整備を進める、健康な体づくりを推進するなどの事例を想定し、まる付け作業を進めてきたところです。

以上でございます。

○鈴木（啓）委員 その点は理解できました。

そうしますと、昨年11月の市長選挙で大久保市長が掲げたマニフェストの第二次基本計画との関係について伺いたいのですが、マニフェストは市長任期における4年間の政策方針として示されたものでありますが、市民の支持を得て大久保市長が就任された以上、大久保市長のマニフェストは民意であり、行政運営に当たって尊重されるべきものだと思っております。例えは給食費の無料化については16億1,000万もかかるんですよ。こうした市長のマニフェストの内容がどのように第二次基本計画に盛り込まれているのか説明を願います。

○事務局 基本計画が市長の任期である4年を超える計画となりますので、市長の方針を実現するための具体的な事業は、基本的には実施計画で整理してまいりたいと考えております。

その上で、基本計画の体系の中で幾つか大久保市長が掲げた重点施策にかかわる主なものを申し上げますと、まず、保育所の待機児童ゼロを目指しますという重点施策では、第1章の「健康で安心して暮らせる、地域福祉の充実したまちをつくります」の中の大分類で申し上げますと「子育て」、中分類でいきますと「地域における子育て支援」、そして小分類で「待機児童解消のための保育サービスの充実」でこの施策を推し進めるものと考えております。

また、道路交通網の整備のうち狭隘道路対策につきましては、第3章「安全で快適な魅力あるまち」、大分類で申し上げますと「交通安全」、中分類で「道路の安全性の向上」、そして小分類の「まごころ道路の整備」で、一番下が狭隘道路の解決というところの施策に取り組むものとしております。もちろん都市計画道路3・4・18号の推進につきましては、同じく第3章の大分類の「道路・交通」、中分類「都市機能の向上」、小分類「都市計画道路の整備」で取り組むものと考えております。

また給食費の無料化につきましては、大分類「子どもの教育」、中分類「市川の教育の姿」、小分類「安全・安心で充実した教育環境を実現する」というところで給食費の無料化の施策について考えているところでございます。

ただし、給食費の無料化については、現在の厳しい財政状況にかんがみまして、教育に係る保護者の経済的負担を軽減する手法ということで掲げてまいりました。公約である以上、この施策を支持してくださった市民の方々への配慮はもちろん重要でございますが、全体的な歳出バランスを勘案しながら、施策の目的に合致し、多くの市民の望むこととなるように、現在慎重に判断しているところでございます。

○鈴木（啓）委員 結構です。

○二瓶委員 諮問された計画案の19ページにある、第一次基本計画の評価結果についてみると、「安全で快適な魅力あるまち」や「真の豊かさを感じるまち」については、「概ね達成できた」との評価が多いのですが、「安全で快適な魅力あるまち」では「やや不十分

だった」という評価が多くなっています。こうした市民の評価を第二次計画に活かして行く必要があると思いますがいかがでしょうか。

また、パブリックコメントについては、「安全で快適な魅力あるまち」について22項目、「人と自然が共生するまち」について21項目と、意見の数が多くなっています。こうした意見を尊重して行く必要があるかと思いますが、具体的にどのように取り入れていくのでしょうか。

○事務局 まず1点目の評価についてでございます。満足度、重要度の調査も含めて、第一次基本計画の評価につきましては、私ども行政みずからが10年間で取り組んだ施策について評価を行っていただきました。その上で、評価の結果、満足度の低い施策については、事業手法の見直し、あるいは重点的に取り組むべき施策として位置づけて対応の必要があるものと考えております。

また、評価を進めてきた中で見えてきた課題につきましては、施策を進める上で当事者である担当部署の考え、あるいはこの総合計画審議会からの意見、そして市民の意見、意向もいただきまして、今後に向けてということで第一次基本計画の評価を取りまとめさせていただきました。そして、その取りまとめさせていただいたものを第二次基本計画の施策の課題ととらえまして、施策をまとめていく上で非常に重要な材料とさせていただいてきたものでございます。

一般に計画を考えてみた場合に、目標に対する現状であるとか課題のギャップを埋めるための取り組みの施策をまとめたものと考えられますことから、第一次基本計画の評価は非常に重要なものと考えてまいりまして、これを第二次基本計画に生かしてまいったところでございます。

2点目の市民意見の取り扱いについてでございます。市民意見をお聞きする手法として、パブリックコメント、出前講座、タウンミーティング、意向調査、そして総合計画審議会による審議により皆様方の意見を聞くということにしております。パブリックコメント等の意見につきましては、計画案を公表して意見を求めて、その意見を考慮して計画を決定するとともに、その意見を、概要、その意見に対する考え方を公表するというルールで進めさせていただいているところでございます。今回、数多くの市民の皆様から意見をいただきました。当初からいただいたものについては、担当もご説明しましたように、評価手法については計画の中にきちんと位置づけるべきだということで意見をいただきましたので、そういったものは一部、諮問案に反映させていただきました。

パブリックコメントにつきましては8月20日が締め切りで、数多くの意見を締め切りの日にいただいて、意見に対する市の考え方あるいは今後の対応について調整中でございます。いただきました市民意見の取り扱いにつきましては、市の要綱がございますので、その手続にのっとって市の考え方、計画への反映などの対応について整理して、この総合計画審議会に報告して公表してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○二瓶委員 そうすると、これは具体的には総合計画には細かいことは入らないけれども、実施計画の中で取り入れていけるところは入れていくという理解でよろしいのでしょうか。

○事務局 基本計画の中でも、まず意見に対する市の基本的な考え方をお示しした上で、意見として参考意見にするのか、あるいは計画の中に反映させていくのか、そういったものを整理しながら総合計画審議会の中にお示しして公表してまいりたいと考えております。

○鈴木（順）委員 資料5の市民意向調査についてですけれども、前回の意向調査より

も回答率が非常に高くなっています。そういう意味で市民の参画意識も高まってきているものと思います。

結果についてみると、満足している、していないか、わからないかという3つの選択肢があったということですが、「わからない」との解答はどれくらいあったのでしょうか。

また、先ほど市民からの意見が38件であり、これをもって多数の意見をもったとの説明がありましたが、これは多数といえるのでしょうか。一般の市民にとっては、市がいろいろな取り組みを行っていても、それらを知る機会が限られているように思います。市政を広報するということをもう少し力を入れていく必要があるかと思います。今回お示しいただいた第二次基本計画の中において、広報の面で力を入れていくというようなことがどこかで挙げられているのでしょうか。

○事務局 第1点目については、資料を事務室から持ってまいりますので、手元に届いた段階でご報告させていただきます。

2点目のこういった市民からの意見をいただく場合については、情報提供、広報が非常に重要であるというご指摘でございます。まさに市民参加のためには情報提供、情報の共有化が車の両輪のように非常に重要な取り組みになると考えております。私どももそういう考え方で整理をさせていただいております。取り組みとしましては冊子の114ページ、施策としては大分類5-1-2情報の発信・提供というところで、市民と行政の情報の共有化、右側のページになります中分類で広報活動の充実ということで、こういった取り組みが市民参加を進める意味では非常に重要と考えておりますので、中分類の柱として位置づけさせていただいているところです。

さらに、意見を聞くという場面で申し上げますと118ページ、119ページになります。5-3-1政策展開について、中分類で申し上げますと右側のページ、広く地域の声に耳を傾けるというところで、聞くほうの部分の広聴の充実ということで小分類に位置づけさせていただいているところです。細かくは左側の118ページに取り組み同様に広報のほうも取り組みのお話を書かせていただいているところでございます。

○國府濱委員 10年間のまちづくりの目標について、文化、環境、教育などでいちかわらしい、このいちかわらしいというところはとても難しい言葉だと思うのですが、その下に安全を追加していただいたということですが、「安心で快適なにぎわいのあるまちへ」という、この「にぎわいのあるまち」というところに私はとてもひっかかっています。

これから高齢化社会に向かっていくわけですし、子どもも少なくなっていく。その「にぎわい」とはどのようなものなのでしょうか。大きな店舗を入れることによるにぎわいなのでしょうか。具体的なイメージがつかめません。

パブリックコメントを見ても、満足度の答えを見ても、市民がにぎわいを求めているということは読み取れないような気がするのですが、いかがでしょうか。

○事務局 「いちかわらしさ」の定義があいまいでなかなかわかりにくいんじゃないかということと、「にぎわい」の部分のご指摘でございます。

「いちかわらしさ」を考えてみた場合、まず私ども考えたのが、東京から市川でまず目に飛び込んでくるのは国府台の斜面緑地でありまして、これは環境というイメージにつながるのかなと思いました。

それから、この国府台には千葉商科大学、あるいは和洋女子大学などの教育施設が集約されておりまして、教育というイメージにつながっていくのではないのでしょうか。市内には真間山弘法寺、下総国分寺、中山法華経寺など文化遺産がありまして、それとともに文化人を輩出してきた文化都市というイメージが強く刻まれているというところで、例示として「いちかわらしさ」というものは、こうしたこれまでの取り組みで築き上げてまい

りました「いちかわらしさ」に磨きをかけてまいりたいと考えているところでございます。

その手段として、こういった10のテーマを意識した取り組みを進めていきたい。その目標として考えている「にぎわい」の部分については、いづれアプローチにおける「地域経済の活性化」の視点ということでありまして、具体的には、商業、工業にとどまらず、大学などの地域の資源も活用したにぎわいのあるまちを目指していきたいということでございます。

ちなみに、安心には子育て、教育、健康を初めとする生活に密着した福祉サービスというところで、快適には環境、文化、ICTなどの住みやすさに通じるアメニティーの向上という意味を込めた目標ということで整理をさせていただいております。

○國府濱委員 市川という、昔は市川駅をおりたときにもう気温がちょっと下がるような感じがするぐらい緑が多いまちだったと思うんです。最近、市川におりても温度差はほとんど感じない。緑はどんどん少なくなっていく。それで、なおかつにぎわいのあるまちづくりを目指すというのは、違和感を持ちます。

○瀧上会長 にぎわいにつきまして、今大学の話が出ましたので申しますと、国府台の地区だけでも大学に1万人ぐらいの学生がいて、そういった学生たちをもうちょっと地域にいろんな形で参加させたり、あるいは消費者として生活をしたり、いろんな面がもうちょっと考えられないかなという感じは私も日ごろ感じておりまして、そういった点もこの中に反映していただければという気持ちは持っております。

○田中委員 1点、この資料をつくられた上での、こういう方法もあるんじゃないかということで投げかけをさせていただきたいと思います。

資料1を見させていただいていても、大分類、中分類、小分類という形で作戦図というか、組織立った形が見えるようになっていっていると思います。先ほどいただいた第二次基本計画の大分類からのすべてが、セクションごとに分けられているものも1枚ずつ書いてあります。

そこで僕が思うことは、代表的な目標値が基本計画にも各セクションに書いてあるんですけども、どの仕事をしたから、この数字が上がったとか、また、1つ1つの細かい仕事を回数重ねるといふあるべき姿の目標値と、今までやっている講演会の回数だとか、防犯パトロールの数とかというすべての目標値がここにいっしょくたになってしまっているから、何をしたらどのような効果になったというものが見えないんじゃないかと思えます。もしそうであれば、資料1のこのような大分類ごとに目標設定を大中小という形で載せていくということも、1つのこれからの行政の仕事のあり方を変えていくきっかけかなと思えますが、その点はいかがでしょうか。

○事務局 私どもも、まさに同じような視点でとらえておりまして、今回ご提示させていただいた目標値につきましては、分野別の計画、大分類レベルでの評価をする指標ととらえております。確かにアウトプットの部分で直結するのかどうかというところもご指摘の部分はあろうかと思えます。それは効率性の視点で見たいというところで掲げさせていただいております。ただ、事業の見直しにつなげるものにつきましては小分類レベルで評価をしていく必要があるだろうと同じように認識しております。これについては、別に目標を設定しながら、事業の見直しにつなげていきたい。そういう仕組みを別に構築してまいりたいと考えているところでございます。

○田中委員 これからの財政難での選択と集中をしていかなければいけないとするのであれば、やはり細かくそのように成果が見れるような形を私は望みたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○事務局 市民意向調査の結果について、詳細が届きましたので、ご報告いたします。現在結果の集計中でございますので、詳細につきましては、次回の審議会の中でご提示させていただきたいと思っておりますが、今手元にある資料で、例えば保健・医療の市の取り組みに満足しているかどうかというところで申し上げますと、「はい」が310人、「いいえ」が428人、無回答もしくは「わからない」とお答えした方が550人となります。

また、子育てにつきましては、「はい」と回答していただいた方が115人、「いいえ」と回答していただいた方が332人、無回答もしくは「わからない」と回答していただいた方が797人。

これは前回の意向調査でもそうだったのですが、サービスを受けていない当事者につきましては、やはりサービスを受ける当事者が限られている場合については、こういった無回答もしくは「わからない」と回答される方が多くなる傾向があります。この結果につきましては、次回お配りさせていただきたいと思っております。

○松永委員 今一通りご説明を受けて、正直思った感想は、いろいろアプローチというアプローチをつくったがために、より複雑化してしまって、総合計画として最終的に何がやりたいのか、よくわからないなというのが正直な印象です。

と申しますのも、10年間のまちづくりの目標を置くときに、市民だれもが同じような目標を共通化できることが重要であって、より複雑にすることが、本来この計画の中でやるべきことじゃないんじゃないかなと思っております。という意味で、10年間のまちづくりの目標が、先ほど幸前委員等からいろんなご意見が出ていましたけれども、よりシンプルにわかりやすくしていくことが重要じゃないかなと思います。

私はむしろ10の視点こそを10年間のまちづくりの目標に置くべきじゃないかと感じています。その中で、どうやって施策を展開していくかということを考えてほうが、よりシンプルになると思いますし、なぜ10の視点があるうちに「安心して快適なにぎわいのあるまち」だけの特徴立ててここで取り上げる必要があるのか全く理解できないというのが正直なところです。やはり「いちかわらしさ」というのが10の視点だということのを置いたので、10年間、この10の視点を目標にやるんですよという形で、よりシンプルにしたほうがいいんじゃないかと思えます。

それから、施策の体系ですが、いろいろアプローチと本来の施策の体系をぶつけて丸ですとか二重丸ですというふうにされていますけれども、恐らく教育振興と子どもの教育という施策をぶつけ合って丸がつかないわけがなく、当然同じキーワードに丸をつけているだけという印象しか抱かないんですね。本来やるべきことは、いろいろアプローチ、いわゆるアプローチ手法なんですから、施策という目標があって、その目標に対して、こういうアプローチをやりますよということの10のアプローチをどうぶつけ合っていくかということだと思います。

この計画を見ていると、施策と施策をぶつけ合って関連づいています、二重丸ですということを行っているだけで、これまでのアプローチ手法が何が変わったわけでもないですし、より複雑化しているだけで、どうしていくべきかという共通の認識が持てない状況になっていることを考えますと、もう1度、10の視点に立ち返るんだったら10の視点で立ち返っていただいて、体系を整理していただくほうがいいんじゃないか。そして、施策としては10の施策を中心に10の視点の施策を展開していく。その最終的な目標が施策の体系の基本目標である「真の豊かさを感じるまち」であるとか、「彩り豊かな文化と芸術を

育むまち」だよというように形で落とし込んでいく体系というほうがいいんじゃないかと思えます。

それから、先ほど田中委員からお話がありました評価についてでありますけれども、これも同様だと思います。いざなりアプローチのアプローチをどれだけしたのかということの評価すること、施策の基本目標である「真の豊かさを感じるまち」がどれだけ実現できたのかということ、この2つの評価をきちっと切り離して評価をしていく。そしてアプローチに関しては毎年やるけれども、目標に関しては5年に1回だよ、10年に1回だよという置き方もできるんだろうと思います。

それと、ほかの予算面との評価も当然行われていきますから、その評価との組み合わせということも十分に考えて、評価のフレームワークをつくり上げていくことが重要じゃないかと思えます。この点に関して、もしご意見があればご意見をいただきたいと思えます。

○事務局 評価の点につきましては、まさに同じように考えているところがございます。それぞれ施策の評価、いざなりアプローチの評価、そして事業の見直しにつながる場所の評価、それぞれの評価を組み合わせながら評価を進めていきたいと考えているところがございます。

それから、10の視点については、むしろこれを中心に施策を展開していくほうがいいのではないかと、そういう体系の整理が必要ということもご指摘を承りました。市川市では、これまで文化、ICTなど、市川を特徴づける施策につきまして、リーディングプランというところでテーマを10選びまして、将来都市像に導くための重要なテーマとして選定をしまいたところがございます。特に力を入れるべき施策分野として総合的、横断的に実施してきた。これにつきましては、この取り組みを今後も継続させていきたいということで、今回いざなりアプローチという手法を使いながら、将来都市像に導くための重要な10のテーマを掲げさせていただいたところがございます。この点については、また審議会のところでご審議をいただきながら整理をしまいたいと考えております。

○松永委員 わかりました。どこに到達するんだという目標をシンプルに設定をいただきたい。目標というのはつくって終わりじゃなくて、市の職員が同じ共通認識を持って施策を展開していくということが重要ですし、同じビジョンなりミッションを持つということが重要になりますから、それが持てるような体系をつくり上げてほしいと思えます。

○鈴木（啓）委員 これはたたき台でしょう。難しいことは何も言っていない。総体系の中から細分化しなきゃ議論が煮詰まっていけないんじゃないですか。10の視点から枝を分けてやらなきゃ、ただ経済の活性化といっても、何をやるのが活性化になるかわからないでしょう。私は意見としては、そのとおりのかもしれないけれど、やっぱり議論を闘わせて、基本構想があって、基本計画があって、実施計画があって、順々にそれをやっていくんだから、それに基づいて意見を闘わせてもらわないと、今までやってきたものは全部何なのかなと思っちゃう。やっぱりたたき台で、この辺のところはこうしてほしいとか言うあれだったらいいけど、10の視点は総体系で、アプローチなんだから、それだけで全部終結なんてできないと私は思いますよ。その点、会長はどのようにとらえていますか。

○瀧上会長 今の鈴木委員のような整理した考え方、アプローチについては、次回、実際にこの第二次基本計画（案）の内容に沿って議論を進めさせていただきたいと考えております。きょうはまず諮問をいただいたので、審議する今後の前提としていろいろと委員の皆様のご質問やご意見に事務局から答えてもらうということで運営をさせていただきます。したがって、今、鈴木委員の言われたような点についてはこれから審議させていただきます。

○松永委員 鈴木委員が言われたのが私のご意見に対するコメントだとするならば、1つ補足説明をさせていただきたいと思います。

私は何も第二次基本計画体系図の体系を無視しろという話をしているわけではありません。第二次基本計画のそれぞれの体系図の中にも小分類という形で施策が出てきていますし、いざなりアプローチという中にも施策が出てきている。両方から施策が出てくるんじゃないなくて、第二次体系図の中分類までを目標値として生かした上でいざなりアプローチということの掛け合わせていったらどうですかということをおはご説明をさせていただいたまでで、何も無視をしろという話をしていないので、その点が誤解を与えたのだとしたら、コメントとしてご意見を述べさせていただきたいと思います。

○神子田委員 前回も出させていただいて、今回のこの変更されたのを見て、前回の議論を踏まえて非常によくできているというのが私の評価であります。

それから、これをよく読むと選択と集中もされているということで、非常によくできていると思います。いざなりアプローチについては、この前のお話だと横ぐしを刺していくんだということも良く分かります。どうも縦割り行政になってしまうので、私は知らないというようなことになってしまうので、それはいけないというようなことがこの中心になっているということで、このアプローチも非常に生きていますということですが、私は逆に二重丸がついていないところは何についていないんだろう、二重丸がつかないことによって、かえって私は知らないんだ、みんなでやっていますからというようなことになりはしないか。例えば26ページの基本目標1の4の「誰もが安心して働くことができる環境をつくります」の「雇用・労働」は地域経済の活性化が二重丸じゃないか。ほぼ二重丸がついているんですけども、ついていない基本目標3の「快適な暮らしを支え、質の高い都市基盤整備を進めます」これが「ユニバーサルデザイン」のところだけについて、「道路・交通」とか「下水道」とかはついていない。ここはどうしてなのかなという感じがするんですけども、その点、1つお答えいただきたい。

それから、市川自身のまちのイメージについては、先ほどどなたかおっしゃっていたとおりで、文化遺産があって大学があってということです。私のイメージとしては、鎌倉に近い感じがするんですけども、将来像を描いたときに、市川という名前が文化都市として隆々としていて、中にいる人たちは皆教育レベルも高く、そしてきちんと考えながら環境にも対応してリサイクルもやっていて、きちんとした生活をしているというのが非常に安全な都市であって、みんながそこに住みたいと思っている、そういうイメージなんだと思うんですね。

現在では、都市間で競争しているわけで、隣の船橋とも競争しているわけだし、その競争の中で、どうやって打ち勝っていかうかということなんだと思うんですね。

そういう観点から見たときに、産業なんですけれども、私はこの委員会に参加させていただいて、あちこち回らせていただいたんですけども、行徳の三番瀬に行ったときに、あの辺の土地は膨大にあいているんですね。ああいう土地をどうやって生かしていくのかといったようなことが、ここに書いてあるんですけども、先ほどの鈴木委員の話じゃないんですけども、今後、どうやってあそこを活性化していくんだという具体化の話からしていかうだろうなと思っておるんですけども、その辺もひとつよろしく願いしたいなということでございます。

○事務局 いざなりアプローチの丸について、例えばということでご指摘をいただきました。例えば基本目標1「真の豊かさを感じるまち」の4の「誰もが安心して働くことができる環境」の「雇用・労働」については、地域経済の活性化というところは密接に関連する部分として二重丸がつくのではないかとということでは、ご指摘の部分もあろうかと思っております。実は私どもも先ほど丸つけ作業をどのような作業を進めてきたかということ

で、現に所管部が持っている計画、事業の実態、あるいは今後見込めるものというところで丸つけ作業を行ってきた中では、余り見出せなかった部分がございます。ただ、ご指摘の部分も踏まえながら、さらにこういうものは配慮する必要があるんじゃないかというようなご指摘をいただきながら、丸つけ作業については、また見直してまいりたい。「快適な暮らし」の部分も同様でございます。

それから、例として行徳地域のお話をさせていただきましたが、まさにそれぞれ地域の特性がございます。地域の特性というのは、例えば臨海部であれば、今後、高谷地域には外環と湾岸道路がつながる結節点として広域交通網ができ上がっていくような場所もございます。そういったところでは、仮にの話ですけれども、流通等の業務がすぐに頭に浮かぶわけですけれども、そういった地域の個性を個々に生かしたまちづくりを進める。その中では、各施策分野が地域特性を踏まえた施策を打ち出す必要があるんだろうと考えておりますので、そういった視点で、またご意見等をいただければと考えているところでございます。

○大場委員 総合計画（案）の8ページの財政推計で、ここまで案ができてきて、9ページの歳入歳出でざっくりと平成23年から32年度と10年間でなっていますけれども、新規事業、投資事業、分野別に大体どのぐらい市の財政に影響するかが見えてくると思うんですね。過去もそうでした。基本的に、基本計画が財政の裏づけというか、財政フレームがきちっとしているかどうか実際に事業が実施できるかどうか。それは絵にかいたもちにならないようにということで、市民もきちっとわかる評価が必要じゃないか。できれば10年間、毎年の財政計画を立てることが一番望ましいと思うんですけどね。

さらに、実際にはこれから、例えば職員の方の退職金の心配もありますね。基金の積み立て、あとは、これからいろんな事業を行っていきますけれども、市債等の残もありますし、実際に基金と市債等の残高の見込みも当面10年間どうなっているのかというのをきちっと示しておくべきだと思うんですね。それがやはり市民に対する一番の情報公開であり、これがどういうふう to 実施されていくかということになると思いますので、そのように考えていただくのはどうか。お願いします。

○事務局 現在ご提示させていただいています財政推計につきましては、平成22年1月に財政部が推計した中期財政見通しに基づくものとなっております。財政部のほうで中期財政見通し、歳入歳出それぞれの費目ごとに推計いたしまして積み上げたものでございます。歳入につきましては、歳入の根幹であります市民税、固定資産税、こういったものについて景気動向や人口推計における生産労働人口の減少を考慮して、あるいは国庫支出金や県支出金については、その充当先である歳出事業の規模、内容に応じて算出したところでございます。

歳出においては人件費、扶助費、公債費、特別会計の繰出金、普通建設事業、そういった区分でそれぞれの伸び率から算出しております。普通建設事業費については個々の事業ごとに積み上げたものでございますけれども、実はこのような見通しと申し上げましたのは、歳入と歳出で630億円の財源不足というギャップが生じております。これを解消するために取り組みを進めているところでございますけれども、現在のところは歳入歳出1兆2,233億円ということで、この数字は入りに合わせた出ということで、歳出に合わせたものとなっておりますが、今後、23年度の予算編成にあわせて数値の精度をさらに高めて、毎年ローリングの必要があればローリングしていくことが必要になるのかなというふうに考えております。

○大場委員 ありがとうございます。これから実際に実施する計画のそれぞれの事業をもう少し煮詰めていけば、どのぐらいの計画でできるかという事業経過が見えてくると思

うんですね。そういった意味では、ぜひ検討をお願いしたいと思います。

○瀧上会長 それでは、予定の時間まで残りわずかとなりましたけれども、まだご発言をしておられない委員の方、どうぞ。

○歌代委員 26ページの先ほどからいろいろ議論されておりましたいろいろアプローチの体系、この手法については、私は大いに評価したいと思います。ということは、今まで行政において、私ども自治会の関係でいろんな分野に携わっております。これが横ぐしが刺さっていない。これが現状でございます。ですから、これを取り上げただけでも大いに評価するところでございます。

それから、先ほど三番瀬のお話が出ましたが、これはこれからいろいろ個々の問題が出てくると思います。私も県の三番瀬の委員をしておりますので、これから大いに議論をし、提案をしていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○石原委員 これまでの皆さんのご意見をいろいろと聞いておまして、私なりの感想を一言述べたいと思っております。

まず、いろいろアプローチの体系、26、27ページですが、これは結局、市が事業として何らかの取り組みをしているものが丸がついているというふうに読み取れるのかなと理解しました。逆に言うと、丸がついていないところは、まだその部分は具体的な事業としてやっていないというところになっていくのかなとも思います。

一方で、これから市川市は平成27年以降、市民の中の労働力人口が減っていくという状況だというご説明が最初でありまして、そうしますと、このまま黙っていれば市に入ってくる税収は減っていくわけです。そういった中で財政的には歳入に見合った歳出ということの基本にいろいろな取り組みをしていくという方向にあるわけですから、これまでは割合とふんだんに予算がありまして、あれもこれもやれたところが、これからは何を優先してやっていくのか、そこのところの見きわめが非常に大事になってくる段階だと思うんですね。

そう考えたときに、この10のアプローチは非常にいいんですけれども、もうちょっと戦略的に、例えば人口が減っていくことが予想されるのだから、もっと人口が他市から市川にふえていくために、ここの部分に力を入れたいとか、そういった何かもっと市が発展していくために直結していくような戦略を持った上で計画をつくったほうがいいんじゃないかと思っております。

一方で、財政ではこんな状況です。歳入に合った歳出をと言っておきながら、取り組みの計画では、今までと同じようなものをしていくというのは本当は無理なんだけれども、何となくこれを見ていると、あれもこれもやるようなふうに見えてしまったのですが、その辺、今後はこれまでの状況よりも厳しくなっていくわけですから、より知恵を必要とすると思っておりますので、計画の中でどうやって市川が持続的に発展していくのかという視点で、10の中でも特にどこを重点的にやろうというものが出てもいいのかなと考えました。

○須保委員 今回、新たにアプローチの仕方を変えたということで、わかりやすくはなっておると思っております。ただ、これまでの基本目標については、そのままずっと継続して、同じ中身で今からやっていくことになろうかと思うのですが、先ほどから多少出ております財源との問題は、当然いろんな諸施策をやれば費用がかかるわけですから、やはりそこには投資効果というものも当然出てこようかと思っております。ここの6ページ、あるいは4ページからずっと出ておるんですけれども、過去の歴史が多少この中には触れられていると思うんですが、財政のところになりますと、直近から将来に向けての中身で、これまでも総計審の中で部分的にはお聞きしているんですけれども、過去のトレンドを見ながらいろんな諸施策をやっていかなきゃいけないんじゃないかと思っております。その辺、これから個々の議論になってこようかと思っておりますから、そういった中では、全体観がある程度つ

かめるようなもの、過去からのトレンドも必要になってくるんじゃないかと思しますので、そういった部分を今後の議論の中での事務局との対話ということでお願いしておきたいと思えます。以上です。

○藤村委員 他市からどういうふうにして人を入り込むかということをもう少し考えたほうがいいんじゃないのかなと思いました。また10年間のまちづくりの目標となっているんですけども、全部が10年間ではなくて、一部分は5年とか、もっと短い期間でやっていくということも考慮したほうが市川市としてもっと伸びる余地、良くなる可能性があるのではないかと思いました。

○瀧上会長 ありがとうございます。計画の期間については基本計画と都市計画の組み合わせといったようなものもありますので、今後検討していきます。

予定時間を過ぎましたが、ご意見ございますでしょうか。よろしいですか。ご意見がよろしければ、諮問内容、それから市民の意見についての説明についての質疑を一通り終了させていただきます。ありがとうございました。

それでは、事務局から連絡事項をよろしく願いいたします。

○事務局 長時間にわたり貴重なご意見をありがとうございます。引き続き答申に向けて次回以降の審議をよろしく願いしたいと思っております。

次回につきましては、10月の開催を予定しております。正式な開催通知については、また後日ご案内させていただきます。

また、お手元に21年度第5回の審議会の議事録の確定版と7月15日に行いました平成22年度第1回審議会の議事録をお配りさせていただいております。22年度第1回の議事録につきまして修正の要望がございましたら、恐れ入りますが、1週間以内に事務局までご連絡をいただければとお願い申し上げます。

冊子について、冒頭、担当のほうからご説明させていただきました21ページ、22ページの差し替えについて、ご要望であれば私どもで今、この会議が終わった後にホチキスどめをさせていただきますので、よろしく願いしたいと思えます。

以上でございます。

○瀧上会長 長時間にわたりましてありがとうございます。

では、以上で平成22年度第2回市川市総合計画審議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。